

ひがしそのぎ

HIGASHISONOGI



「龍年」

たつどし

龍頭泉

昇り龍のごとく

“壬辰歳”

平成24年

1

JANUARY
NO.532

謹んで新年のおよろこびを申し上げます



今道教育長（左）渡邊町長（中央）小山田副町長（右）

町民の皆様方におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのことと存じます。

日頃より、町政に対しましては、ご理解とご協力を頂きましてありがとうございます。

心より深くお礼申し上げます。

また、東日本大震災や原発事故など、未曾有の災害に遭遇されました被災者の皆様方に対して、温かいご支援を頂きましたことに深く感謝申し上げます。

さて、今年は辰年になりますが、皆様ご承知のように、この龍を国旗にあしらっている国がブータンです。

昨年の11月にブータンの国王御夫妻が、国賓として来日され、日本と日本国民への深い思いやりで満ちたお言葉には感動を受けられたことと思っております。

今、世界中の人々から、「世界一幸福な国ブータン」として、注目されています。

その取り組みは、GNP国民総生産など経済的な豊かさよりも、GNH国民総幸福量、幸福こそ人のそして国家の究極の目標とされています。

私は所信表明の一つに風光明媚な東彼杵町の地の利をいかし、このまちに住んでよかったと感

東彼杵町長 渡邊 悟

じる町づくりを目指したいと思ってきました。

ところで、東彼杵町におきましては、少子化は年間40名の誕生であります。又、超高齢時代で日本が2030年に迎えると言われていますが、それが約20年も早く到来しています。今後ますます激増し、また、生活様式が多様化していく現状であります。

このような現状の中で、「地域力」が、今まさに「まちづくり」の重要な役目となってきております。

行政と地域の皆様とが一体となって、今まで以上に、まちづくりに取り組んでいくことの必要性が求められております。そのために、「まちづくり課」を新しく設けました。

このままでは、衰退していくばかりの町を、行政と町民皆様方と一緒に、なんとかして再生していかなければなりません。

町民皆様方の貴重な声を、町政にいかしていくために、皆様方との対話を重視した「なんとか集會」を実施いたしております。昨年21地区、そして、今年13地区開催いたします。

これからは、何度も対話を重ね、皆様方の「地域力」を、これからのまちづくりの原動力にしていきたいと思っております。

これまで開催しました「なんとか集會」では貴重なご意見をいただきました。

今すぐ出来るものは、早期に取り組みたいと思っております。

次に、東彼杵町を取り巻く主要な公共事業であります大村東彼杵広域農道整備事業につきましては、平成24年10月全線開通の予定であります。

これは農業の生産性向上は勿論のことですが、完成により、この広域農道沿線の皆様方の生活行動範囲が一気に活発化して大きな相乗効果が期待できます。

東彼杵町にとってこの大きな産業基盤、生活基盤の整備が、これからの東彼杵町に大きな効果をもたらしてくれることを期待しております。

町道整備につきましては、大野高原線、平似田太ノ浦線、木場本線、里一ツ石線及び遠目中央線など継続して早期完成を目指し、引き続き取り組んで参ります。

新幹線事業は、九州新幹線長崎ルートに着工認可も、国におきまして最終的な詰に入っているようです。又西九州ルートにおきましては、千綿トンネル工事に伴います騒音・振動や井戸の枯渇などの現象が発生しています。鉄道運輸機構と緊密な連携で、町民皆様方への不安解消に取り組んで参ります。

企業誘致につきましては、町工業団地を中心に、長崎県へも積極的に誘致をお願いいたしております。昨年の東日本大震災によります企業のリスク分散で九州地区への企業進出が考えられましたが、円高ドル安の不況などにより海外への企業進出で産業の空洞化が懸念されます。

これまで40年間東彼杵町の皆様方に慣れ親しまれておりました、養護老人ホーム「ひさご荘」が移転先となっております川棚町へ今年1月移転いたします。このことは、人口減少の続く中、厳しい結果となりました。しかし、中岳地区にあります障害者支援施設「常明園」が、施設の老朽化等で、移設計画が大村市も視野に検討がなされましたが、常明園様の町内での移転を快くご決定していただきました。

このことにつきましては、移転先であります、蔵本自治会の皆様方のご理解の賜と感謝を申し上げます。

産業振興につきましては、農林水産業すべてにおいて、後継者不足や価格低迷で極めて厳しい経営を余儀なくされている現状であります。対策の一つとしましては、六次産業化や販路拡大など、いろいろな知恵をだして、難局を乗り越えなければなりません。

水産業についても、漁業地であります大村湾そのものが地球温暖化や赤潮発生などで変化し続けております。自然豊かな大村湾を目指し漁業関係者の方々と一緒に取り組む必要があります。

公共事業につきましては、これまで高度経済成長期から平成にはいった頃までに生活や産業の基盤となる多くのインフラ整備が行なわれてきました。今、この多くの社会資本の老朽化を迎えます。

経済が低迷している中、その維持管理の経費増加は必至で、投資余力はなく大きな負担が見込まれます。このため経常経費の捻出と公共投資に大きな制約があり、大量更新時代をどうするのか、また、業務の効率化をどう行なうのか、新たな発想が求められます。

防災につきましては、東日本大震災から町民皆様方の防災に対する意識が大きく変わりました。

従来の地域防災計画の見直しや防災非難訓練などの実施要望が多く寄せられています。

特に、寝たきりの老人対策など具体的な取り組みが求められています。防災訓練は災害の種類によって避難場所など臨機応変の対応が必要であります。各地区での取り組みを基礎にした防災訓練の実施を検討して参ります。

これからのまちづくりは、まず、そこに住んでいる人々が健康でなければなりません。

町民皆様方の健康づくりの推進や子育てしやすいまちづくりにきめ細やかな取り組みを行なって参りたいと思っております。

町民皆様方、町議会の皆様方とともに、このまちに住んでよかったと感じる町づくりを目指したいと思っておりますので、今後ともご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

結びになりましたが、町民皆様方の今後ますますのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。



新年を迎えて

長崎県知事 中村 法道



新年あけましておめでとうございます。

県民の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

はじめに、東日本大震災に際しましては災害発生直後から、県民の皆様方のご協力をいただき、被災地支援に全力で取り組んでまいりました。本県が過去の災害において全国の皆様からいただいた支援に対する感謝の気持ちを忘れることなく、今後とも、被災地の1日も早い復旧、復興を願い、県民を挙げて支援に努めてまいりたいと考えておりますので、変わらぬお力添えを賜りますようお願いいたします。

さて、県では、昨年、新たな「長崎県総合計画」をスタートさせ、「人が輝く、産業が輝く、地域が輝く長崎県づくり」を目指し、様々な施策に取り組んでおります。今年も一つ一つの課題に正面から向き合い、少しでも多くの成果を県民の皆様にお示しできるよう努めてまいります。

「アジア・国際戦略」の推進につきましては、昨年は「孫文・梅屋庄吉と長崎」プロジェクトを通して、本県と中国との深い絆を改めて認識したところであり、国交正常化40周年の節目の年に一層の交流が見込まれる中国をはじめ、アジア各国との更なる交流拡大を図ってまいります。

また、昨年就航した長崎～上海航路により、日中の新幹線や高速道路網を一つに結ぶ新たなアジアとの交流軸が形成されることとなります。中国から人や物の流れを呼び込み、長崎をその交流拠点として再構築することで、本県経済の活性化にもつなげてまいります。

九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）につきましては、新幹線の整備効果を県内各地が一日も早く享受できるよう、諫早～長崎間の早期認可・着工と、

武雄温泉～長崎間の一括開業の実現に向けて、引き続き全力で取り組んでまいります。

さらに、今年10月の「全国和牛能力共進会」、来年の「長崎しおかぜ総文祭」、そして再来年の「長崎がんばらんば国体」と、県内外から多くの人にお越しいただくイベントが続くことから、引き続き、歴史、文化、食、自然など本県の魅力発信に努めてまいります。

企業誘致につきましては、東日本大震災を機に、リスク分散のため生産拠点の移転に関心を持つ企業が見受けられることから、工業団地の整備と積極的な誘致を行い、雇用の場を確保してまいります。

離島の振興につきましては、平成25年3月に期限を迎える離島振興法の改正に向けて、思い切った振興策を法に盛り込むよう、引き続き国へ強く働きかけていくとともに、交流人口や島内消費の拡大によるしまの活性化に全力で取り組んでまいります。

この他、博多～壱岐～対馬等基幹航路の新船建造支援による運賃の低廉化や、「未来型ドライブ観光システム」の本格運用を開始する長崎エビッツプロジェクトも引き続き推進してまいります。

また、「地域発の地域づくり」につきましては、その取り組みを支援することで、地域の元気を取り戻し、県全体の活力の創出につなげてまいります。

加えて昨年は、山口国体での本県勢の躍進や、「しおかぜ総文祭」に向けた高校生の頑張りなど、若者たちの活躍が印象的でした。そのような中、本県出身の内村航平選手が昨年の世界体操競技選手権大会で個人総合優勝を果たされ、前人未到の大会3連覇を成し遂げられました。この偉業に対して、県民栄誉賞を贈呈させていただきました。今年夏のオリンピックでのさらなるご活躍を期待いたしております。

今年も「こぎ出せ！長崎」を旗印として、県民の皆様と力を合わせ、本県の総合力を発揮し、厳しい時代の荒波をしっかりと乗り切って、本県の未来を切り拓いてまいります。ぜひ皆様も、県政への積極的なご参画をよろしくお願いいたします。

結びに、本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますよう心からお祈りいたしまして、新年のごあいさつといたします。

少年剣道教育奨励賞 千綿龍頭館少年剣道育成会

少年少女の剣道指導に永年に亘り尽力され、家庭及び学校教育並びに地域社会の向上に資する活動を継続してこられたことに対して、この度、全日本剣道連盟から千綿龍頭館少年剣道育成会へ少年剣道教育奨励賞が贈られました。

現在、千綿龍頭館では、小学1年生から中学3年生まで計36名が、日々練習に励んでいます。

育成会会長の山口修平やまぐちしゅうへいさんは「保護者の方や関係者の皆様の協力のおかげで今まで43年間継続して活動してこれたと思います。」と話されていました。



くじらグルメレシピコンテストメニューのご紹介

くじらを使った家庭料理のレシピを多くの方からご応募いただきました。広報紙にてコンテスト入賞メニューをご紹介します。皆さんのご家庭で、ぜひとり入れてみてください。

◆◆ くじらのコロッケ竜眼風 ◆◆



【材 料】(4人前)

鯨(須払い) 100g、ジャガイモ 2～3個
玉ねぎ 1/2個、ウズラの卵 8個、塩・コショウ少々
酒・しょう油・砂糖各大さじ1、サラダ油少々
ころも用の小麦粉・パン粉・卵、揚げ油

くじらグルメレシピコンテスト 優秀賞
佐世保市 藤原歩美さん

【作り方】

- ① みじん切りの玉ねぎと細かく切った鯨をフライパンで炒める
- ② 火が通ったら、塩・コショウ・酒・しょう油・砂糖を加えさらに炒めて、具材を冷ます
- ③ ジャガイモをやわらかくなるまで茹で(茹で汁に塩を適量)、温かいうちにつぶしておく
- ④ ウズラの卵も茹でておく
- ⑤ ②と③を混ぜ合わせ8等分に分けて、茹でて皮をむいたウズラの卵を包んで形を整える。
- ⑥ 小麦粉→卵→パン粉をつけて、170℃に熱した油でキツネ色になるまで揚げる

町民集いの広場

すくすくねんね

【お問い合わせ先】

すくすくねんね ☎46-0737

1月イベント予定(10時～12時) ※予約制です

場 所：総合会館内2階保健センター
開設日：火～土曜日 9時30分～15時30分

- 1日～3日 年始 お休み
- 5日(木) ハンドメイド
- 7日(土) お休み
- 10日(火) ヨガ・ピラティス
- 14日(土) ベビーマッサージ
- 19日(木) 誕生会・お喋り会
- 26日(木) 親子クッキング



▲ふるさとふれあいまつりでのすくすくねんねの様子

27日には、絵本の読み語りや、すくすくねんね・にこにこはうすのバザーが行われ、たくさんの方で賑わいました。





街のあちこち

祝100歳

ふじさき
藤寄ツサさん（東町）

12月10日にめでたく100歳を迎えられた藤寄ツサさん。お祝いの席で、藤寄さんは得意の歌を披露してくださいました。

元気の秘訣については、「たくさん食べること、足を鍛えること、みなさんと会って話すこと。」と話してくださいました。

いつまでもお元気で！！



祝100歳

かわはら
川原トシさん（菅無田）

12月20日にめでたく100歳を迎えられた川原トシさん。川原家では歴代最長寿ということで、ご家族からは「前人未到の1世紀、さらに長生きしてもらいたい」と話してくださいました。いつまでもお元気で！！

（写真は、白寿のお祝いの際の、曾孫さんたちとの記念写真です。）



自然を大切にしながら ～いこいの広場～



キャンプ場やテニスコート、ドックランなど、多くの人に親しまれている『いこいの広場』。

12月1日から5年間、「緑の会」が管理・運営をすることになりました。

緑の会は、これまでいこいの広場の管理・運営をされていて、さらに継続して、管理・運営をしていただきます。

代表の村田昇さん（東町）は「誰でも、気軽に利用でき、『来てよかった』と言われるように、自然を大切にしながら施設づくりに取り組みます。」と抱負を話されていました。

そのぎ芋焼酎をぜひどうぞ！！

そのぎ芋焼酎の会（会長 飯野洋明さん）12名が、そのぎ芋焼酎を製造しました。

町おこしの一環として、平成21年11月に製造したそのぎ芋焼酎が好評で、今回2回目のそのぎ芋焼酎づくりとなりました。

約1トンの芋（紅あずま）を収穫し、1年間余り寝かせて醸造し完成したそのぎ芋焼酎。

芋の品質も良く、前回以上の出来栄えだそうで、今後は、1年おきに製造し、町おこしを兼ねて販売していきたいと話されていました。

道の駅において、数量限定で販売予定です。



暴力団の介入の排除に取り組みます！！

町が行う全ての契約から、暴力団の介入を排除するための協定を12月6日、川棚警察署と締結しました。

工事の入札や物品購入、公共施設の管理委託などの契約で暴力団関係者の関与が疑われる場合、川棚警察署に情報提供を求めたり、排除に必要な支援を受けたりすることができます。

調印式で渡邊町長は「巧妙な手口で介入してくることが予想される暴力団に、警察の協力を得て排除できるように努めていきたい」と話されました。



門松づくりやもちつきにチャレンジ！！



町内の小学生が歴史民俗資料館で12月10日、門松づくりやもちつきに挑戦しました。

町教育委員会が主催する放課後子ども教室推進事業の一環で、毎年12月に行っています。

参加した子どもたちは、まず、門松づくりにチャレンジ。それぞれ思い思いに、特色のあるミニ門松が出来上がりました。

その後、昔ながらの杵でもちつきに挑戦。初めてもちつきをした子どもたちも多くいました。つきたてのお餅は、婦人会から振る舞われた豚汁と一緒に、おいしくいただきました。

